



アクアマリンふくしま（いわき市）

アクアマリンふくしまは、多くの方々が海洋生物や環境について楽しみながら学べるようにという考えから作られ、平成12年にオープンしました。館内には、福島の海の大きな特徴である太平洋の「潮目」をテーマにした大水槽があるほか、水生生物が息をする自然環境が再現されています。また、体験しながら命の尊さについて学んだり、環境問題について考えるコーナーも設けられています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では大きな打撃を受け、飼育生物の約9割を失ってしまいましたが、約4ヶ月後の平成23年7月15日には300種類約2万点を集め全館再オープンを果たしました。

今では、館内に子ども達の元気な声が響き、福島県の復興を象徴しています。



株式会社アサカ理研



証券コード：5724

株主の皆様へ

第45期株主通信

平成23年10月1日から平成24年9月30日まで

個人投資家の皆様へ

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.asaka.co.jp/>



■ トップインタビュー

株主の皆様におかれましては、平素より当社の活動に多大なるご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに平成24年9月期の事業概況、及び今後の見通しについてご報告申し上げます。

Q1. 平成24年9月期の業績についてお聞かせください。

当連結会計年度のわが国経済は、欧州の財政問題に端を発した世界景気の減速や、円高の長期化の影響から、景気回復の動きが一服し、停滞感が漂う状況となりました。

当社グループの経営成績に大きく影響を及ぼす、電子部品・デバイス工業分野においては、スマートフォンやタブレット端末の普及という追い風はあるものの、円高や世界的な景気減速の影響によって、全体として生産数量が減少し、回復の見通しが立たない状況が続きました。一方、主力製品である金の価格は、総じて高値圏で推移しました。また、銅の価格については、前年度後半からやや軟調な動きとなっており、当年度の期間を通じた平均価格は、前年度より低い水準となりました。

このような環境のもと、当社グループでは、年度目標である、「新しい市場の開拓」、「新たな事業基盤となり得る新規事業の構築」、「生産の効率化や新規事業創出のための技術開発」、「社内諸制度の変革を通じた経営管理体制の強化」に取り組み、企業価値の向上に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度において、電子部品・デバイス工業分野の生産減少の影響を受けながらも、貴金属価格が高値を維持したことによって、売上高は、13,093百万円（前連結会計年度比0.1%増）となりました。営業利益は、製品販売数量の減少及び新規事業への先行投資の実施等によって、249百万円（同45.4%減）となりました。経常利益は、貴金属の価格変動リスク回避のために行っているデリバティブ取引により、洗い替え等によるデリバティブ評価損107百万

円を計上し、118百万円（同78.1%減）となりました。これにより、当期純利益は、73百万円（同62.0%減）となりました。

Q2. 今後の見通しについてどのようなお考えでしょうか。

わが国経済は、復興需要による景気回復効果が期待される一方、欧州での信用問題の行方や世界経済の減速懸念、さらに円高の長期化による影響などにより、先行きについては、予断を許さない状況が続くと見込んでおります。

貴金属の価格については、比較的高い水準で推移しており、翌連結会計年度においても、当連結会計年度と同程度の水準を維持すると想定しております。また、銅の価格についても、同程度の水準を維持すると想定しております。ただし、いずれも各国の財政政策の影響を大きく受ける状況にあることから、今後の景気動向とそれに伴う財政政策の動向次第では、大きく変動する可能性があります。

貴金属事業及び環境事業の主要なお客様が属する電子部品・デバイス工業分野においては、価格競争の激化、円高の長期化の影響を大きく受けており、国内生産の大幅な改善は見込みにくい状況にあります。当社としては、既存のお客様



代表取締役社長 山田 慶太

に対しては、より競争力のある価格でサービスを提供できるよう、生産効率を高めて、コストダウンを進めるとともに、海外も含めた新しい市場、事業分野への進出を図ってまいります。また、当社の主力事業は、貴金属及び銅の相場変動と、電子部品・デバイス工業分野の生産動向の影響を受けやすい状況にあります。当社は、かねてより事業基盤の盤石性を確保するために、これらの影響を受けにくい事業を立ち上げるべく、研究開発及び市場開拓を進めており、その成果が徐々に開花しつつあります。

以上により、翌連結会計年度の当社グループの売上高は、11,099百万円（前連結会計年度比15.2%増）、営業利益は、252百万円（同1.2%増）、経常利益は、225百万円（同89.7%増）、当期純利益は、122百万円（同66.2%増）を見込んでおります。

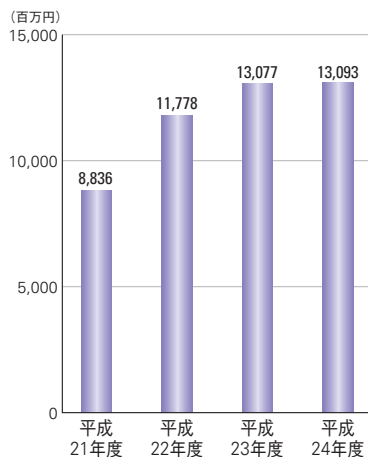
Q3. 株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

当社の主要なお客様の属する電子部品・デバイス工業分野においては、円高の長期化の影響から、海外での生産比率を高める傾向にあり、国内生産の大幅な改善は見込みにくい状況にあります。また、世界経済の変動によって大きく需要が増減する局面が増加しており、近年その振幅は大きく急激なものになってきています。

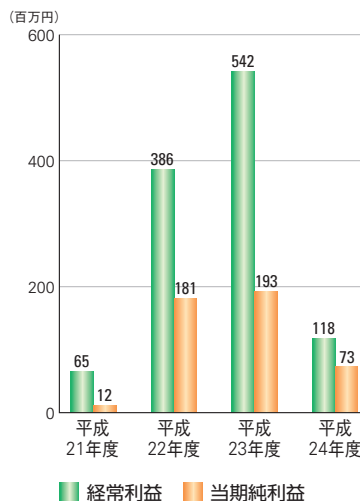
そうした厳しい環境の中ではありますが、「新規事業の創出及び新市場の開拓の加速」をはじめとした当社グループが捉えている重要課題の克服に向けて、全役職員が一丸となって取り組むことによって、事業の安定化を図るとともに、引き続き企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

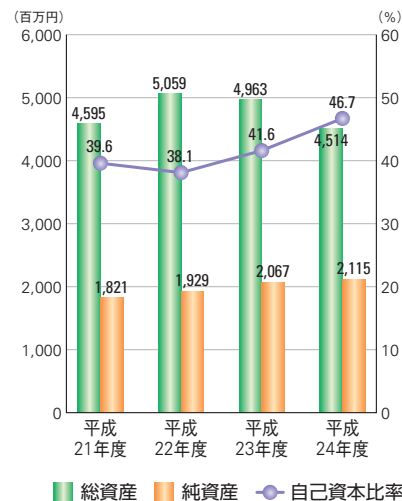
売上高



経常利益、 当期純利益



総資産、純資産、 自己資本比率



■ 当連結会計年度の概況

■ 貴金属事業

当事業の主要なお客様が属する電子部品・デバイス工業分野の生産は、前年度の水準を下回り、当社の貴金属の販売数量が前年度実績を下回りました。一方、主力製品である金の販売価格は、高値で推移しました。主力製品の販売数量が減少したものの、平均販売価格は前年度実績を上回ったことから、売上高は、12,067百万円（前連結会計年度比0.8%増）となりました。セグメント利益は、新規事業への先行投資を実施したことと、貴金属に関するデリバティブ取引による評価損を計上したこと等によって、502百万円（同36.4%減）となりました。

■ 環境事業

当事業の主要なお客様が属する電子回路基板業界の生産は、依然足取りが重く、当社の電子回路基板向けエッチング液及び銅ペレットの販売数量は、前年度の実績を下回りました。また、銅ペレットの販売価格は、前年度の水準を大幅に下回り、販売数量の減少と相まって減収要因となりました。一方、新規事業においては、売上を伸ばすことができましたが、減収分を補いきれず、環境事業全体の売上高は、949百万円（同7.0%減）となりました。セグメント利益は、製品販売価格の低下による売上高の減少に加え、新規事業にかかる販管費の増加等によって、129百万円（同47.7%減）となりました。

■ その他

その他に含まれるシステム受託開発事業及び運輸事業においては、厳しい事業環境の中での利益確保を目指し、コスト削減等の合理化と顧客満足の向上に継続的に取り組んでまいりました。この結果、その他の売上高は、228百万円（同4.8%減）となり、セグメント利益は、25百万円（同96.1%増）となりました。

■ 連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当期 (平成24年9月30日)	前期 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産	2,552	2,999
固定資産	1,962	1,964
有形固定資産	1,783	1,792
無形固定資産	25	29
投資その他の資産	153	142
資産合計	4,514	4,963
負債の部		
流動負債	1,344	2,047
固定負債	1,054	849
負債合計	2,399	2,896
純資産の部		
株主資本	2,085	2,049
資本金	504	504
資本剰余金	339	339
利益剰余金	1,288	1,252
自己株式	△46	△46
その他の包括利益累計額	25	17
新株予約権	4	—
純資産合計	2,115	2,067
負債純資産合計	4,514	4,963

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期 (平成23年10月1日～ 平成24年9月30日)	前期 (平成22年10月1日～ 平成23年9月30日)
売上高	13,093	13,077
売上原価	11,497	11,418
売上総利益	1,595	1,659
販売費及び一般管理費	1,345	1,202
営業利益	249	457
営業外収益	22	123
営業外費用	153	37
経常利益	118	542
特別利益	6	1
特別損失	1	157
税金等調整前当期純利益	124	387
法人税、住民税及び事業税	23	171
法人税等調整額	27	21
少数株主損益調整前当期純利益	73	193
当期純利益	73	193

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期 (平成23年10月1日～ 平成24年9月30日)	前期 (平成22年10月1日～ 平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	232	200
投資活動によるキャッシュ・フロー	△198	△137
財務活動によるキャッシュ・フロー	△237	△234
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△202	△172
現金及び現金同等物の期首残高	642	814
現金及び現金同等物の期末残高	439	642

■ 戦略・研究テーマの進捗状況について

当社は、「貴金属事業」と「環境事業」の2つを柱に事業展開しておりますが、それらの事業で培ったコア技術を活かせるような新規事業の育成のために、それぞれの戦略・研究テーマにも取り組んでおります。

昨今、資源リスクとして認識されておりますレアメタル・レアアースの分野においても、当社はリサイクルという形で社会貢献が果たせるよう、その実現に向けた取り組みを進めております。そこで、今回は、レアメタル・レアアース、さらには当社の取り組みの一部についてご紹介させていただきます。



■ トピックス

平成24年8月 独立行政法人日本原子力研究開発機構及び株式会社マテリアル・トレーディング・カンパニーとの共同プロジェクトである「ランタン及びガドリニウム精製の事業化に向けた実証事業」が、経済産業省の補助事業（※）として採択されました。

（※）平成23年度希少金属使用量削減・代替技術開発設備整備等補助金（レアアース・レアメタル使用量削減・利用部品代替支援事業）

会社概要

商号	株式会社アサカ理研
本社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセロ47番地
設立年月日	昭和44年8月25日
資本金	504,295,600円
事業内容	
①貴金属事業	金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精製処理及び販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生及び販売
②環境事業	塩化第二鉄廃液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売、水処理事業、光触媒事業
③その他の事業	自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発及び販売、工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

役員

代表取締役社長	山田 慶太
取締役	吉田 隆之
取締役兼執行役員	志村 高史
取締役兼執行役員	佐久間幸雄
取締役兼執行役員	鈴木 忍
取締役	野納 敏展
取締役	熊谷 巧
取締役	三崎 秀央
常勤監査役	大谷 勝男
監査役	遠藤 政勝
監査役	森 勝房

- (注) 1. 取締役野納敏展氏、熊谷巧氏及び三崎秀央氏は、社外取締役であります。
2. 監査役大谷勝男氏及び遠藤政勝氏は、社外監査役であります。

株式の状況

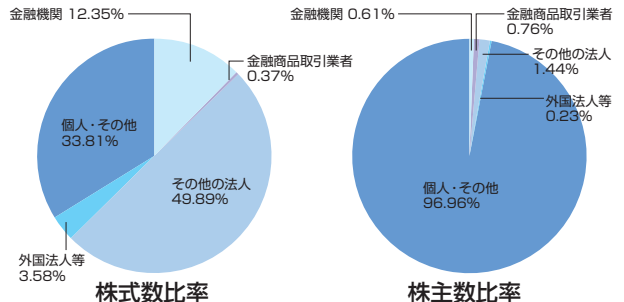
発行可能株式総数	10,200,000株
発行済株式総数	2,572,300株 (自己株式84,697株を含む)
株主数	1,316名

大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社モラル・コーポレーション	718	28.86
株式会社M&F	340	13.67
野村ホールディングス株式会社	100	4.02
株式会社常陽銀行	90	3.62
株式会社東邦銀行	81	3.26
日本生命保険相互会社	72	2.91
ザ バンク オブ ニューヨーク トリー ティー ジャスデツク アカウント	54	2.17
山田 盛久	50	2.03
第一生命保険株式会社	50	2.01
東京中小企業投資育成株式会社	50	2.01

(注) 当社は自己株式(84,697株)を保有しておりますが、議決権がないため上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



(注) 上記比率は、当社保有の自己株式(84,697株)を控除して計算しております。

■ 株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
配当金受領株主確定日	9月30日
	なお、中間配当を実施するときは3月31日
定時株主総会	毎年12月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711（通話料無料）
特別口座の口座管理機関	東京証券代行株式会社
同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL：0120-49-7009（通話料無料）
上場証券取引所	大阪証券取引所・JASDAQ市場
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asaka.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株券電子化によるご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行為口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

「アクアマリンふくしま」の名前の由来について



「アクアマリンふくしま」という愛称は、平成10年の全国公募により、応募のあった4,722点の作品の中から選考されたもので、水族館（Aquarium：アクアリウム）と海洋博物館・科学館（Marine museum：マリンミュージアム）の機能を併せ持った施設であることから、それぞれの英文字を組み合わせて「アクアマリン」（AQUAMARINE）となりました。
また、ガラスでできた建物が太陽の光を反射する姿が、宝石のアクアマリンの輝きに似ていることも名前の由来となっています。

環境水族館アクアマリンふくしま（財団法人ふくしま海洋科学館）

〒971-8101 福島県いわき市小名浜字辰巳町50

TEL：0246-73-2525

<http://www.marine.fks.ed.jp/>

福島の旅が丸わかり!!

で検索 <http://www.tif.ne.jp>

うつくしま観光プロモーション推進機構（財団法人福島県観光物産交流協会 内）

福島市三河南町1番20号コラッセふくしま7階 TEL：024-525-4024